平成29年
岡崎信用金庫
資料館
竣工100周年記念

文化財を訪ねて

第6回

国登録有形文化財

トヨテック本社社屋・倉庫
（旧豊川電話中継所本屋・倉庫）

トヨテック本社社屋･倉庫（旧豊川電話中継所本屋･倉庫）は、本屋は『造形の規範となっているもの』、倉庫は『国土の歴史的景観に寄与しているもの』として、平成19年に国登録有形文化財（建造物）に登録されました。

岡崎信用金庫資料館は竣工百周年を迎えました。歴史的価値のある文化財を未来に託すため「文化財を訪ねて」シリーズとして、愛知県内の登録有形文化財を紹介してまいります。第6回目はトヨテック本社社屋・倉庫（旧豊川電話中継所）です。

旧豊川電話中継所本屋・倉庫は、愛知県の東三河に位置する豊川市にある㈱トヨテック本社敷地内に建っています。

国内で最初の一般公衆通話の取り扱いは明治22年（1889）からですが、この頃は架空（かくう）に設置された裸線が用いられたことから通話距離に限界がありました。これを解決し長距離通話を可能にしたのが装荷（そうか）ケーブルと真空管中継器でした。昭和3年（1928）、東京ー神戸間に装荷長距離ケーブルを使用した市外通話が開通しましたが、この時、真空管中継器を用いて音声を増幅する施設として電話中継所が9カ所建設されました。旧豊川電話中継所はそのうちの1つです。愛知県内に現存する電話中継所はここだけとなっており、装荷ケーブルに関する希少な産業遺産です。

現存する数少ない逓信省建築物[※1 ※2]

旧豊川電話中継所社屋は、鉄筋コンクリート造2階建です。北側2階の増築部分以外は建設当時の外観を留めています。中継所時代の延床面積は612・45平方メートル。中継所時代、1階は電力室、電池室や宿直室等として使用され、2階には中継器が設置された機械室等が配されていました。当時の中継器は高さが約3メートルあったため、階高は4メートルを越えるほどに高くなっています。内部は装飾のない仕上げとなっていました。現在は事務室等に改装されています。

外観は、屋上の水平の庇、縦長の窓、繰型をつけた柱と間柱で逓信建築の特徴が見られます。特に、外側に出された柱と間柱は屋根庇の手前で止められ、両者の間に隙間を造っています。また、柱の端部を階段状にするなど、当時の逓信省の意匠が見られます。建物の規模、各室の配置や建築意匠については、最初に建設された亀山中継所などと類似しており、電話中継所建設にあたり標準仕様があったと考えられます。

▲4メートルを越える階高の2階

▲敷地内にある旧豊川電話中継所倉庫（現在は西半分のみ現存）

希少な昭和初期のコンクリート造建築

古い鉄筋コンクリート造の事務所ビルは大正2年（1913）の三井物産横浜ビル1号館がありますが、普及したのは大正9年（1920）頃からです。昭和初期のコンクリート造建築物は愛知県でも希少となっています。昭和初期の逓信省による標準的な中継所建築として、数少ない建築物の一つである旧豊川電話中継所は、昭和27年（1952）に中継所としての役目を終えましたが、昭和60年（1985）に㈱トヨテックが豊川市から買い受け、修復保存し本社屋として現在も使用しています。

（※1）逓信省は、かつて日本に存在した郵便や通信を管轄する中央官庁。現在の総務省、日本郵政、及びNTTは、逓信省の後身に相当する。

（※2）戦前の逓信省において郵便・電信・電話・電気／事業の局舎等、施設を逓信省営繕課の官僚（技師集団）らによって設計された建築物。合理主義の建築という逓信建築は堅実で質高い標準設計・建築を数多く生み出し、個性溢れる建築家を多く擁していた。

株式会社トヨテック

トヨテックは、オプト（光学）、メカ（精密機械）、エレクトロニクス（電子技術）の3つの専門技術を柱とし、お客様のニーズを設計開発から製品化する、オプトメカトロニクスの総合メーカーです。

〒442-0024
愛知県豊川市西豊町二丁目35番地
0536-85-1110
営業時間：8時～17時
休 業 日：土・日曜日
見 学 無 料
www.toyotec.com

平成29年
岡崎信用金庫
資料館
竣工100周年記念

ペン画家 柄澤 照文

あるがままを未来へ語り継ぐために僕は絵で伝え続けられたらと思います。

Profile

岡崎市在住。69歳。
昭和53年（1978）、29歳でミニコミ誌「おかざきしんぶん」創刊。挿絵として、身近な街並みを描き始めた。昭和59年（1984）、約40日間かけて「塩の道（岡崎～足助～飯田）」スケッチの旅に。以降全国各地をスケッチして、江戸時代の先人の足跡や古い街並み、農山村風景を描き続ける。また、全国の市町村や各新聞・出版社などの依頼でさまざまな挿絵や連載を担当するほか、自身の旅の記録を綴った旅日記など出版。

Terufumi Karasawa

岡崎信用金庫資料館は、平成29年、竣工100周年を迎えました。節目の年となる今年度は様々な催しを開催しています。3月13日から31日は、柄澤照文作「大正5年岡崎俯瞰図屏風展」を開催します。今回は、ペン画家　柄澤照文さんにお話を伺いました。

―子どもの頃から絵が上手だったのですか？

絵は下手でした(笑)。ポスターなどを書くのは好きだったのですが、美術の成績は残念でしたね。高校生のとき、友達のいた美術クラブで油絵をかじったのが始まりでしょうか。

―ペン画をはじめたきっかけは？

30歳のころ、女房と一緒に何かできないかと思い、自分の住む岡崎の街を紹介するミニコミ紙「おかざきしんぶん」を創刊しました。文字ではなかなか伝わりづらい昔の話も、挿絵が入るとぐっと親しみやすくなるようで、県外のかたから欲しいと連絡が来たこともありました。それからは文字より絵をメインに載せるようになりましたね。取材を通して、お年寄りや地元のかたのさまざまな話を聞くうちに、「平穏な今の時代が築かれる前、先人たちがどのような時代を生きていたのか、あるがままを伝えられたら」と思うようになりました。「新しいものを創作するより、昔からの事実そのままの世界を引き継いで伝えていくことのほうが大事なんじゃないか」と。

今でも新しい作品に取りかかるとき、いろいろな人に話を聞いたり昔の資料を調べたりと、取材にはたくさんの時間を費やしています。古い資料や文献は、執筆した人によって解釈が異なっていたりするので、どれだけ調べても終わりがないですね。

▲ミニコミ誌「おかざきしんぶん」

―なぜ屏風絵を描こうと思われたのですか？

38歳のころ、江戸時代の紀行家菅江真澄の足跡をたどってスケッチ旅をしたことがあります。信州を越えて日本海を北上し、東北から蝦夷(北海道)の南側、そして青森、秋田へと半年ほどかけてまわったんです。そのとき、江差という町で江差屏風というものに出会い、大きな屏風いっぱいの絵や金箔の張られた艶やかな屏風絵にすさまじい力を感じました。大きな絵が見る人に与える感動の強さというものがずっと印象として残っていましたね。

それからもペン画でいろいろな絵を描いたりしていたのですが、20年ほど経った59歳のとき、ふと屏風絵を描きたいという気持ちがわいてきたんです。題材として浮かんだのは「塩※の道」でした。「塩の道」と聞くと、帆掛け船に塩俵を積んで矢作川を上ってくるものや、馬の背に塩俵を載せて信州のほうへ運んでいくという絵が一般的です。しかし、同じ時代・地域の中には、塩に関わっていない人々の生活も同様にあったはず。それらを一つの屏風に全部描くのではなく、さまざまな歴史の出来事や地域を切り取って書き連ねて、一つの絵本のようにできたらおもしろいのでは。見る人がわくわくして地元の歴史に興味をもってもらえたら…。そんな思いで描き始めました。

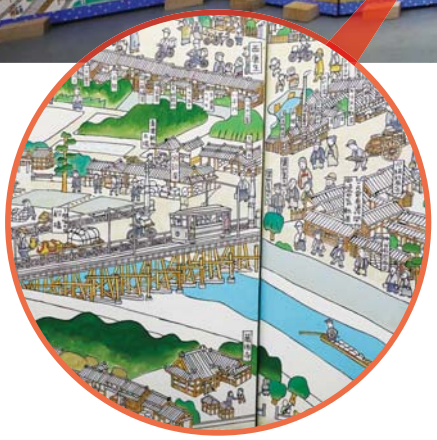
▲長年愛用している道具

―柄澤さんの屏風絵といえばカラフルな色使いも特徴的ですね？

竹ペンで描いた輪郭にアクリル絵の具で色付けします。使いやすく発色がきれいで気に入っていますね。はじめた頃は道具や描き方も分からず、とりあえず表具屋へ駆け込みました。屏風絵や日本画を描いた経験もなければ、金箔を貼ったこともない僕の屏風絵は、専門家から見たらおかしな部分がたくさんあるかもしれません。金箔を貼った部分も、下地が見えていたり破れていたりと、

※塩の道(しおのみち)は、塩や海産物を内陸に運ぶのに使われた道のこと。製塩が化学製法に代わり、専売法に依る規制がかけられる以前は海辺の塩田に頼っていたことから、日本の各地で、海と山を結ぶかたちで数多くあった。日本海側の千国街道(糸魚川 - 松本)や北国街道(直江津 - 追分)、太平洋側の三州街道(岡崎 - 塩尻)、秋葉街道(御前崎 - 塩尻)などが日本の塩の道を代表する。

岡崎信用金庫資料館▶



▲路面電車も走っていた殿橋

Check

今回の作品は、約100年前の岡崎市の街の様子や当時の人物が描かれています。今も面影が残る建物や当時の人々など、見覚えのある景色や名前が見つかるかもしれません。近くで見て探してみるのも楽しみ方のひとつです。

▲綿密に書き込まれた下図

本職のかたからしたらありえない貼り方をしているようです(笑)。

―新作「大正5年岡崎俯瞰図屏風」も大きな屏風絵ですね。

八曲の屏風は縦170センチ、横650センチほどでしょうか。大まかな構図を作成したら、下図を何枚も何枚も描きます。完成した下図を実寸のパネルに鉛筆描きするのですが、その時に建物や人物をどんどん増やしていきます。本描きしながらもどんどん変わっていくので、下図と見比べるとだいぶ変わっていると思います。

芸術家などは作品の世界に集中して取り組んでというイメージがあるかもしれませんが、僕は人に見られていたり声をかけられるのはまったく問題ありません。今作もたまたま機会をいただいて制作過程を公開しましたが、制作展や展示会でさまざまな話を聞かせてもらい描き直したりします。ですから、これで完成ということがないですね。今作は約100年前の岡崎という比較的新しい時代を描いていますので、資料には載っていないような話を教えてもらえるのは大歓迎です。

3月13日から当資料館で開催する柄澤照文作「大正5年岡崎俯瞰図屏風展」では、最新作をはじめとする屏風画全4作品のほか、下図なども展示します。ほのぼのとしたタッチで歴史に忠実に描かれた柄澤さんの作品を近くでゆっくりご鑑賞いただけます。是非一度お越しください。

入館無料

大正5年
岡崎俯瞰図屏風展
3月13日(火)～3月31日(土)

岡崎信用金庫資料館
岡崎市伝馬通1丁目58番地
0564-24-2367
時　間：10時～17時
(入館は16時30分まで)
休館日：月曜日・祝日

岡崎信用金庫資料館竣工100周年記念事業

山里アート

in 岡崎信用金庫資料館　入館料無料

岡崎の水源に位置し、乙川の源流部にある千万町楽校（旧千万町小学校）で好評を博した「山里アートin千万町楽校」
その出展作家の作品展が、岡崎中心部の岡崎信用金庫資料館で開催されます。

2018年2月3日（土）～2月28日（水）

国島　征二

前田　正剛

平松　聰志

唐澤　萌

会場：岡崎信用金庫資料館
開館時間：**10時～17時**（入館16時30分まで）
休館日：月・祝日は休館日
主催：千万町・木下ふるさとづくり委員会、じさんじょの会
後援：岡崎市・岡崎市教育委員会・中日新聞社・東海愛知新聞社

「おかしん先端科学奨学金制度」
奨学生による成果発表会開催のご案内

当金庫は、大学共同利用機関法人自然科学研究機構（基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所）と地域連携協定を結び、岡崎市を中心とした地域における教育支援等の活動において、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的に、平成24年8月「おかしん先端科学奨学金制度」を創設しました。今回は奨学生の方々の研究成果発表会を開催いたします。

日　　時 ／ **平成30年2月19日㈪　14:00～15:30**（開場13:00）
※13:00より会場には自然科学研究機構の取り組み内容を紹介したパネルが展示してあります。

会　　場 ／ 岡崎信用金庫　本部ビル2階大ホール

申込方法 ／ ホームページ「お知らせ欄」に掲載している「おかしん先端科学奨学金制度」奨学生による成果発表会のページの『参加申込書』にご記入の上、おかしん本支店窓口へお申し込みください。

発 表 者 ／
須田　啓 氏〈総合研究大学院大学(基礎生物学研究所)〉　発表テーマ『食虫植物ハエトリソウの持つ記憶機構(仮題)』
森下　美生 氏〈総合研究大学院大学(基礎生物学研究所)〉　発表テーマ『植物がもつ高い再生能力を引き出すステミン遺伝子の役割(仮題)』
春若　航一路 氏〈総合研究大学院大学(生理学研究所)〉　発表テーマ『生体イメージングが明らかにする脳一免疫系の相互作用(仮題)』
新宅　直人 氏〈総合研究大学院大学(分子科学研究所)〉　発表テーマ『有機太陽電池に及ぼす電子の振る舞いの効果(仮題)』

毎月一回発行
発行所　岡崎市菅生町字元菅四一

平成30年
2/13(火)

新築移転オープン！

岡崎信用金庫 日名支店

このたび、岡崎信用金庫日名支店は、新築移転させていただきます。
今後もより一層地域の皆さまに愛され信頼される金融機関を目指して参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

〈移転前〉
〒444-0912　岡崎市井田西町５－１
〈移転後〉
〒444-0912　岡崎市井田西町７－１

TEL：0564-26-2611
電話番号は変わりません

まずは、おかしんにご相談ください

- ビジネスマッチング
- 事業継承・M&A
- 海外ビジネス支援
- 相続関連
- 補助金・助成金

全自動貸金庫の設置　土・日・祝日もご利用OK!

365日ご利用できる全自動貸金庫を設置し、皆さまの大切な財産をお守りします。ぜひこの機会に、新規ご利用してみませんか？

発行／岡崎信用金庫　編集／地域振興部
電話〈〇五六四〉二二五―七三四一（http://www.okashin.co.jp）

平成29年分

確定申告

申告書には マイナンバーの 記載が必要です！

確定申告は、
自宅から ネットが便利
☑早い　☑待たない
☑24時間いつでもOK

Step1　国税庁 ホームページで 申告書を作成
Step2　ネットで送信（e-Tax）／プリントアウトして送付

医療費控除の提出書類が簡略化されます

詳しくは　確定申告　検索

申告の際には
マイナンバーの記載+本人確認書類の提示 又は **写しの添付** が必要です
※e-Taxで提出する場合は、本人確認書類の提示又は写しの添付は不要です

申告と納税

所得税および復興特別所得税 贈与税
平成30年
3月15日(木)まで

所得税および復興特別所得税の確定申告の窓口での相談・申告書の受付は、平成30年2月16日(金)からです。

消費税および地方消費税（個人事業者）
平成30年
4月2日(月)まで

確定申告書の作成に当たっては、「復興特別所得税額」の記載漏れのないようご注意ください。

税務署